

PFAS (有機フッ素化合物) の水汚染に関する院内集会

— 衆議院議員会館で緊急会合を開催

弁護士／理事 成嶋悠子

国会会議では、「JEPA ニュース」125号等でも紹介したように、東京多摩地区のPFAS汚染の問題に取り組んでいます。国会議員にこれらの問題についての認識とより良い対策を求めるため、2020年12月1日、衆議院第一議員会館にて緊急会合(院内集会)を開催しました。当日は、議員9名、秘書12名の計21名の参加がありました。

まず、『永遠の化学物質水のPFAS汚染』(岩波ブックレット)の共著者で沖縄タイムス特約通信員・ジャーナリストのジョン・ミッチェル氏に「PFAS汚染とは何か?海外での対策事例は?」と題してご講演いただきました。その後、汚染地域である多摩地区及び沖縄の住民の方から声を届けていただき、国会議員と意見交換を行いました。以下に、院内集会の概要をお伝えします。

ジョン・ミッチェル氏 講演内容

まず、日本と海外ではPFAS汚染への認識に大きなギャップがあることを指摘したいと思います。2年前、米国EPA(環境保護庁)は、PFAS汚染は「国の緊急事態である」と宣言しました。また、2020年、EUは「10万か所以上汚染があり、推定汚染除去費用を2兆6000億円」であると発表しました。ハリウッドでは『ダークウォーターズ(DARK WATERS)』という映画も公開されています。海外では、PFAS汚染のマ

スコミ報道も多く、国民の意識が非常に高いのです。これに対し、日本では沖縄を除いて「PFAS」という言葉を知っている人はほとんどいないでしょう。

① 基本的事項

PFASとは、5000種類ほどある人工化学物質の総称で、代表的なものがPFOSとPFOAです。PFASは耐熱性、耐水性及び耐油性があります。

最初に発見されたのは1930年代で、1950年代から広く使用されるようになりました。PFASは、繊維、メッキ、半導体など多くの産業で使われ、多くの家庭用品にも含まれています。食品包装容器、化粧品(特にコンシーラー)、アウトドアの撥水性の衣服、焦げ付き防止のフライパン及び一部の消火剤などに使われています。新型コロナパンデミックで、テイクアウトをする機会が多くなりましたが、紙製の包装容器には耐油のためPFAS処理されているものがありますので、この1年でPFASのばく露レベルは高くなっていると思います。

PFASは土壌では1000年以上残留すると推定され「永遠の化学物質」と呼ばれています。PFOSとPFOAは、2010年以降生産や使用が規制されましたが、残りの約5000種類のPFASは全く規制されていません。

メーカーは何十年前前からPFASの危険性を知っていました。今日、米国連邦政府が行った研究では、

PFASの人間への様々な有害影響がわかってきました。例えば、ホルモンに対する影響、血中コレステロールへの影響、さらには発がんリスクを高めることなどです。また、欧州環境庁は、子どもに対する影響を指摘しています。例えば、出生時体重の低下、ワクチンに対する効果の低下、乳腺発達の遅れなどです。

さらに、米国の専門家の間では、新型コロナウイルスとPFASの関連を憂慮する声もあがっています。ハーバード大学の研究によると、PFASの体内レベルが高い人ほど新型コロナウイルスの重症度が高くなることが示唆されています。PFASのばく露によって免疫系が損なわれるため、新型コロナウイルスに感染しやすくなるからです。PFASによってワクチンの効果が下がるのではと危惧する専門家もいます。

② 海外のPFAS汚染と改善努力

米国では、PFAS汚染の被害者がメーカーを訴えています。また、連邦政府は基地の汚染状況の調査に着手し、さらに連邦、州政府ともに河川の汚染調査、野生生物、住民の血液調査を行っています。ワシントン州やサンフランシスコでは、食品包装容器へのPFASの使用を禁止しました。欧州では、2019年、今後10年以内にすべてのPFASを段階的に撤廃すると宣言しました。

次期大統領バイデン氏は、PFASに関して、有害物質に指定し除去を求めること、罰則をとまう法的拘

東力のある飲料水基準の設定、健康に関する研究の促進を公約で言及しています。PFAS問題は新政権発足後、大きく迅速に前進するのではないかと期待されます。

③日本のPFAS汚染

日本政府は、2020年、PFASに関する調査結果を発表しましたが、5000種類ほどあるPFASのうちPFOSとPFOAの2物質のみの調査です。

大阪では工業用水による高濃度のPFAS汚染が起きています。また、米軍基地がPFASの汚染源となっています。例えば沖縄で最高レベルのPFASが確認されたのは、嘉手納基地周辺の河川です。さらに地下水については、横田及び厚木で高いレベルのPFASが検出されました。

④何をすべきか

まずは、米軍に対して私たちが基地内に入るアクセス権を認めさせることです。また、日本は水道水に1ℓあたり50ngの暫定目標値を設定しましたが、値が高すぎることで、5000種類ほどあるPFASのうちPFOSとPFOAの2種類に限定していること及び法的拘束力がないことから、この値では不十分です。米国の専門家たちは、人の健康を守る安全レベルは10ng/L以下であるべきだとしています。日本の基準値の50ng/Lは5倍以上高いこととなります。

最後に、PFASを含む化粧品や包装容器などの家庭用品を禁止する措置が必要です。生活の中には様々な形でPFASが含まれており、私たちは常にばく露しているため、これらの製品におけるPFASの使用を禁止することが必要です。

日本において、市民にPFAS汚染が問題だという認識が広がり、汚染解決に向けて市民運動が立ち上がり、事態が変わることを期待します。

汚染地域住民の声、意見交換

①多摩地区：浅田多津子氏

血中濃度の検査の際に呼びかけ人をし、私自身も検査をしました。府中市在住40年で、26年間、府中武蔵台浄水所の水を飲んできました。2人の娘がおり、3人の孫がいます。食料品にも日々有機の農産物を取り入れ、家庭菜園もしていました。今回の血液検査の結果、21人中5人は「緊急にばく露低減策を行わなければならない」レベルで、私はその一人です。

府中は1985年以降、府中武蔵台浄水所からトリクロロエチレン等の化学物質が検出され、10年の市民運動で除去するためのばっ気装置の設置を進め、地下水に戻した経緯があります。そのような中、また化学物質に汚染されていることがわかり、府中市在住の10人もどうにかこれを問題視していきたいという思いで、コロナ禍でしたが血液検査に参加したのです。地下水が含まれた美味しい水を飲み続けたい、次世代にこの経験を生きさなければならないと強く思っています。

化学物質が野放しになっていること、また東京都は美味しい水というペットボトルを売り出していました。何が美味しい水なのだと思いを覚えています。3人の孫は、母乳で育ち、今も府中市の水を飲んでいません。乳幼児、妊産婦への対策を早急に進めて欲しいと思っています。この問題をこれからも考え、府中市内で広げていきたいと思っています。

②沖縄：山本藍氏

沖縄で母親を中心にPFASの問題に取り組んでいる「水の安全を求めるママたちの会」の代表をしています。会の立ち上げは2019年5月25

日です。同月、『琉球新報』で立て続けにPFAS汚染に関する記事が出ました。この報道を受けて、これは大変だと思ったと同時に、数年前から懸念されていた事態がなにか動くかもしれないと期待しましたが、市民や大きな団体に動きはありませんでした。また、沖縄県知事が国に基準値の設定を求めに行くという記事も出ましたので、基準値自体に市民の声を反映しようと周りの母親たちに声をかけて集まったのが私たちの会です。

沖縄のPFAS問題には、米軍基地の問題など難しい面があることは重々分かっています。しかし、私たちは待てないのです。今、目の前で育てている小さな子どもたちに飲ませる水、ひねった蛇口の水の中に、発がん性物質、しかもフォーエバーケミカルと呼ばれるような長年にわたって体内に蓄積される物質が含まれている。それを知らずながら生活することは、母親としてあり得ないことで、子どもの口を開けて毒を飲ませているのと同じような気分なのです。そのことから、私たちの会は、沖縄県に対して県民のばく露を少しでも低減するように緊急的な措置を講ずることを求めています。今すぐできること、自分の持ち場でできることに一人ひとりが取り組まなければ、子どもたちの健康を守ることはできないと思っています。

子どもたちを汚染から守っていききたいという切実な声を受け、国民会議ではこの院内集会を第一歩とし、さらなる活動へと展開していきたいと思っています。なお、国民会議のHPにて院内集会の様子を録画した動画及びジョン・ミッチェル氏の講演資料を公開しています。誌面ではお伝えしきれない部分もありますので、ぜひ当会のHPの動画をご覧ください。